

新年のごあいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大により社会環境が一変しました。食や購買のスタイルは大きく変化し、今後は先々への不安による節約志向や栄養バランスの取れた食品への関心による健康志向の高まりといった新しい生活様式へと移行するとみられます。一方で、家畜疾病の発生や世界人口の増大、気候変動の加速により、食の安定供給に対する危機感が高まると推測されます。

世界人口の増大とともに食肉消費が拡大する中、たんぱく質を持続的に供給することが当社の使命であり、サステナブルな事業モデルへの転換を進めています。畜産振興の観点では、高齢化や人手不足の課題解決としてNTTデータ様と協働で実証実験を進めている『スマート養豚』の早期実用化を目指しています。一方で、環境負荷低減や多様化するライフスタイルへの対応という観点では、植物由来の原料を使用した『代替肉』の市場創出、『培養肉』の研究開発を進めるなど新しいたんぱく質の提案も並行して進め、『食』の発展に様々な価値を提供していきます。研究開発の観点では、疲労回復のサプリメントとして商品化してきた鶏むね肉由来の『イミダゾールジペプチド』に、東京大学などとの共同研究で加齢による『認知機能の低下改善』『脳の委縮抑制』の機能を確認し特許を取得しました。このように、生産から販売まで手掛けるニッポンハムグループならではの研究開発力を活かし、新たな事業化を目指していきます。

本年4月よりスタートする次期中期経営計画では、10年後のありたい姿である2030年ビジョンを描き、そこから振り返った「中期経営計画2023」「中期経営計画2026」を策定します。社会課題の解決を通じ、「国内コア領域での成長」、「新領域への挑戦」、「海外市場の成長」を中心に取り組みます。また、これらを実行していくため、全社戦略の下、事業横断型戦略推進、新規事業戦略、DX推進などについてのプロジェクトも進めています。DXの取り組みの一つとして、毎年1月に開催しているニッポンハムグループ展示会については、本年は従来のスタイルではなく、新たなコミュニケーションの形として開発したシステム『マーケティングコミュニティ』を通じてサステナビリティへの取り組みや新商品情報等を提案いたします。

今後も変化に機敏に対応し、事業活動を通じて社会課題の解決や消費者の皆様のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上に貢献してまいります。

最後に、皆様のご健勝と業界の発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和三年 元旦

日本ハム株式会社
代表取締役社長 畑 佳秀